

九頭竜川・北川減災対策協議会 議事概要

日時：平成 28 年 3 月 24 日（木）10：00～10：55

場所：福井県国際交流会館 2階 第1、2会議室

【出席者】

東村福井市長、橋本あわら市長、坂本坂井市長、河合永平寺町長、松崎小浜市長
近畿地方整備局 森久保福井河川国道事務所長、山岡九頭竜川ダム統合管理事務所長
(以下代理出席)
福井地方气象台 日吉次長、福井県 辻技幹、若狭町 深水環境安全課長

【マスコミ】

NHK、日本経済新聞、読売新聞、福井新聞、日刊県民福井（中日新聞）、建設工業新聞

【主な発言（発言順）】

《各組織での取組状況》

<福井市>

- ・ 広域的な避難のあり方は今まで議論されてこなかったもので、これから考えていく必要がある。平成16年の福井豪雨以前は、自主防災の組織率が32%だったが、その後は96%になった。災害が起こったときを契機に動くのが大事である。
- ・ 平成30年の福井国体では、福井に初めて来た人でも避難場所が判る様に、避難先を示した住所表示板の設置や、公園に避難場所を示した表示板を設置しているところである。
- ・ デジタル防災行政無線の対応や、避難場所となる小学校の防災備蓄倉庫、給水設備の整備など事前の予防対策も行っている。

<あわら市>

- ・ 昭和56年に竹田川が溢水し浸水被害があった。土のうを積んで対応したが、当時と比べてあれほどの人が集まるのか、年齢層が高くなっていることから、防ぐ力や逃げる力が衰えている。
- ・ 情報の伝達も高齢者が多くなっており難しいところではあるが、そういった視点を取り入れた方が良い。
- ・ タイムラインや広域避難も大事である。

<坂井市>

- ・ 防災行政無線のデジタル化については、平成23年度から順次整備を進めており、平成28年度ですべて完了する。これによって、Jアラート（全国瞬時警報システム）からの緊急情報などは、防災無線の自動起動によって市内全域での放送が可能になった他、避

難所・防災情報などの情報も本庁から一斉に放送することが出来るようになった。情報伝達手段の多様化により、しっかり伝えていく。

- ・水防訓練の実施や、各小学校の備蓄倉庫の整備を行っている。

<永平寺町>

- ・自主防災組織の強化を行っており、各集落に防災組織を設置している。防災組織のリーダーは、60%以上の方に複数年継続してやってもらっている。
- ・平成28年度からは、町内8ブロックで自主防災組織が主体となって防災訓練を実施するように計画している。

平成27年からは自主防災組織も水防訓練に参加している。

- ・平成28年度には上志比地区、永平寺地区のアナログをデジタル化に整備していきたい。
- ・ケーブルテレビは95%を超える加入率なので、警報などはケーブルテレビでも放送している。

<小浜市>

- ・昭和28年台風13号の災害で甚大な被害を被った。水防訓練も毎年出水期前に実施している。
- ・平成17年から職員が地元に出向き出前講座を実施している。
- ・出水時に避難情報を出しても外れると苦情があったが、近年は外れても苦情が少なくなっており、避難情報を出しやすい。
- ・防災行政無線は平成26年6月すべて配備し、情報伝達できるようになった。
- ・避難所にテレビが無いところもあったので避難者からの要望で配備をした。
- ・自主防災組織の組織率は福井市のように高くないので、地域の意識を変えていくことが課題である。

<若狭町>

- ・自主防災組織の設立は、町を挙げて推進している。小学校区ごとに地域づくり協議会が設置され、防災訓練は協議会が中心になって実施している。
- ・平成25年の台風18号により、北川の支川野木川で出水があった。河川の浚渫も進められており大事なことだと思っている。

<福井地方气象台>

- ・近年は、雨の降り方が局地化・集中化・激甚化してきていることに対応して、防災気象情報の改善をおこなう。この気象警報等の情報に合わせて、雨量など危険性の推移など分かりやすく色分けすることや、当日から5日先までの警報の可能性などの情報を時系列でわかりやすく提供する。平成29年出水期までにはホームページで公開する。

<福井県>

- ・県管理区間の河川整備がなかなか追いついていない状況である。
- ・河川水位やカメラの映像を随時情報提供しており、カメラの台数も増やしているところである。携帯を登録すれば、河川情報をメールでお知らせするサービスも実施している。

《住民避難》

<福井市>

- ・避難をするときは明るいときでないといけない。日没後に逃げなさいと言っても高齢者が増えた状況の中では逃げられない。台風は予測がつくので、できるだけ早めに避難所を開設することが大切である。発令時期はしっかりと考えないと難しい。

<小浜市>

- ・平成16年の江古川のはん濫では、勧告を出したが避難人数が少なかった。特別警報が発令された平成25年の台風18号は5倍ぐらいに増えた。やっぱり意識の違いかなと思う。平成25年の特別警報時には、避難勧告は出したが避難指示を出すかは非常に迷った。朝方の暗い時間帯で、道路冠水などの報告もあったため勧告のままとどめた。結果的に、2次災害を防ぐことが出来たのではないかと考えている。

避難情報の言い方ひとつでも変わると思う。切迫した言い方で防災無線を流すだけでも違うのではないか。

<福井地方気象台>

- ・特別警報を出すときには、すでに危険な状態である。防災気象情報を早め早めに出すことを心がけている。特別警報を出す時には各市町へ気象台からホットラインの連絡をするので、その時は危ないと思ってください。

以上